

2023 年度

IR 推進委員会報告書

2023 年度委員

矢口洋生

呂光暁

結城裕也

三浦和夫

志田昌幸

青井美智子

菅原克将

佐藤一樹

本田春緋

八木田僚

本年度のIR報告書では【資格とキャリア形成】ならびに【新入生アンケート】についてIR委員会で検討したものを報告する。

【資格とキャリア形成】

以下の表は、教務課のデータを用いて2020年から2022年までの「卒業人数」、「卒業時資格取得者数」ならびに取得率、「国家試験合格者および合格率」をまとめたものである。

[資料1]

○主要資格取得状況

【卒業人数】

		2020年度	合計	2021年度	合計	2022年度	合計
発達	初等	9	38	8	48	4	46
	幼児	29		40		42	
心福	心理	17	32	13	34	28	47
	福祉	15		21		19	
健栄	※(編入生)	60(9)	69	68(7)	75	82	82
GS	イングリッシュインテンシブ	27	42	46	69	47	66
	共生社会	6		12		5	
	グローバル文化	9		11		14	

【卒業時資格取得者数および取得率】

			2020年度 取得者	2020年度 取得率	2021年度 取得者	2021年度 取得率	2022年度 取得者	2022年度 取得率
発達	初等	幼稚園教諭一種	7	77.8%	6	75.0%	3	75.0%
		小学校教諭一種	9	100.0%	8	100.0%	4	100.0%
	幼児	幼稚園教諭一種	28	96.6%	38	95.0%	36	85.7%
		保育士	29	100.0%	37	92.5%	37	88.1%
心福	心理	高等学校教諭一種(公民)	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%
		介護福祉士国家試験受験資格	1	6.7%	4	19.0%	1	5.3%
	福祉	社会福祉士国家試験受験資格	8	53.3%	9	42.9%	6	31.6%
		精神保健福祉士国家試験受験資格	3	20.0%	6	28.6%	7	36.8%
健栄		管理栄養士国家試験受験資格	62	89.9%	70	93.3%	79	96.3%
		栄養教諭一種	5	7.2%	10	13.3%	13	15.9%
		栄養士 ※編入生含	69	100.0%	75	100.0%	82	100.0%
GS	イングリッシュ インテンシブ	中学校教諭一種(英語)	4	14.8%	7	15.2%	3	6.4%
		高等学校教諭一種(英語)	4	14.8%	8	17.4%	6	12.8%
	共生社会	中学校教諭一種(社会)	2	33.3%	0	0.0%	2	40.0%
		高等学校教諭一種(公民)	2	33.3%	0	0.0%	3	60.0%

※グローバル文化は教職資格取得不可

【国家試験合格者数および合格率】

			2020年度 受験者	2020年度 合格者	2020年度 合格率	2021年度 受験者	2021年度 合格者	2021年度 合格率	2022年度 受験者	2022年度 合格者	2022年度 合格率
心福	福祉	介護福祉士国家試験	1	1	100.0%	4	4	100.0%	1	1	100.0%
		社会福祉士国家試験	8	3	37.5%	9	3	33.3%	6	4	66.7%
		精神保健福祉士国家試験	3	2	66.7%	6	4	66.7%	7	5	71.4%
健栄		管理栄養士国家試験	62	53	85.5%	70	61	87.1%	79	49	62.0%

(本田春緋)

以下はキャリアリソース課のデータから見た、「求人と資格要件の関係」[資料2-1]、「資格がどのように資格に結びついたかについての実数ならびに比率」を示したものの[資料2-2]である。

[資料2-1]

赤：求人募集要件になっている
 青：求人募集要件に記載の場合あり
 色なし：特になし

就職要件資格識別

学科名	資格名	求人募集職種 の募集要件	要件として 記載される 場合あり	募集要件 なし	求人先職種 (勤務先)
子ども 教育 学科	保育士資格	○			公務 保育園 こども園 幼稚園 児童養護施設 障害者施設
	幼稚園教諭一種免許状	○			公務 保育園 こども園 幼稚園
	小学校教諭一種免許状	○			小学校 施設(児童館等) 児童養護施設
	中学校教諭一種免許状(英語)	○			中学校 施設(児童館等) 児童養護施設
	上級情報処理士			○	IT企業?(記載はなし)
	情報処理士			○	IT企業?(記載はなし)
	レクリエーションインストラクター			○	
	認定絵本土(開設申請予定)			○	
	社会教育士			○	
	社会教育主事任用資格			○	
	児童指導員任用資格	○			施設(放課後デイサービス、児童館等)
	児童の遊びを指導する者任用資格(児童厚生員)		○		児童館
	母子支援員任用資格			○	
	児童生活支援員任用資格			○	
	社会福祉主事任用資格		○		病院、施設(障害者施設、介護施設等)
日本語教員(課程修了証明書)			○		
心理 福祉 学科	認定心理士/認定心理士(心理調査)			○	
	公認心理士国家試験受験資格			○	
	社会福祉士国家試験受験資格	○			公務、病院、社協、 施設(障害者施設、介護施設等)
	精神保健福祉士国家試験受験資格	○			公務、病院、社協、 施設(障害者施設、介護施設等)
	高等学校教諭一種免許状(公民)	○			高校 施設(児童館等)、児童養護施設
	上級情報処理士			○	IT企業?(記載はなし)
	情報処理士			○	IT企業?(記載はなし)
	身体障害者福祉司任用資格			○	
	知的障害者福祉司任用資格			○	
	児童福祉司任用資格			○	児童相談所?
	社会福祉主事任用資格		○		病院、施設(障害者施設、介護施設等)
	児童指導員任用資格	○			施設(放課後デイサービス、児童館等)
	児童の遊びを指導する者任用資格		○		児童館
	日本語教員(課程修了証明書)			○	
	社会調査士			○	
レクリエーションインストラクター			○		

健康栄養学科	栄養士	○			公務、給食委託会社、食品メーカー、病院施設（障害者施設、介護施設等、保育園）
	管理栄養士国家試験受験資格	○			公務、給食委託会社、食品メーカー、病院施設（障害者施設、介護施設等、保育園）
	栄養教諭一種免許状	○			給食指導のある公立学校（公務） 幼稚園 保育園あり
	フードスペシャリスト資格認定試験受験資格			○	
	食品衛生管理者任用資格	○			公務・県職員大卒程度（衛生職）
	食品衛生監視員任用資格	○			公務・県職員大卒程度（衛生職）
	社会福祉主事任用資格		○		病院、施設（障害者施設、介護施設等）？
	上級情報処理士			○	IT企業？（記載はなし）
	情報処理士			○	IT企業？（記載はなし）
	日本語教員（課程修了証明書）			○	
グローバルスタディーズ学科	高等学校教諭一種免許状（英語）	○			高校 施設（児童館等）児童養護施設
	中学校教諭一種免許状（英語）	○			中学校 施設（児童館等）児童養護施設
	高等学校教諭一種免許状（公民）	○			高校 施設（児童館等）児童養護施設
	中学校教諭一種免許状（社会）	○			中学校 施設（児童館等）児童養護施設
	上級ビジネス実務士			○	
	上級情報処理士			○	
	情報処理士			○	
	社会教育士			○	
	旅程管理主任者			○	※中途添乗員求人の場合に記載あり
	日本語教員（課程修了証明書）			○	
	児童英語教員（課程修了認定証）			○	
	社会教育主事任用資格			○	
	社会福祉主事任用資格		○		病院、施設（障害者施設、介護施設等）？
	児童指導員任用資格	○			施設（放課後デイサービス、児童館等）
児童の遊びを指導する者任用資格		○		児童館	

[資料2-2]

資格を用いた就職者の実数

学科名	資格名	2020年度	2021年度	2022年度		
子ども教育学科	保育士資格	保育園・保育所	13	18	12	
		こども園	5	5	8	幼稚園教諭と同一人物をカウント
	幼稚園教諭一種免許状	幼稚園	9	10	12	
		こども園	5	5	8	保育士資格と同一人物をカウント
	小学校教諭一種免許状	6	6	2		
	児童指導員任用資格	1	1	2		
児童の遊びを指導する者任用資格（児童厚生員）			2			
心理福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格	3	3	4		
	精神保健福祉士国家試験受験資格	1	1	4		
	高等学校教諭一種免許状（公民）			1		
	介護福祉士	1		1	現在は取得不可	
	社会福祉主事任用資格	2		2		
	児童指導員任用資格	3		3		
健康栄養学科	栄養士	32	27	32		
	管理栄養士国家試験受験資格	22	26	24		
	栄養教諭一種免許状		2			
	食品衛生管理者任用資格			1	2022秋田県職公務	
	食品衛生監視員任用資格	1		1	2020仙台市公務（非正規）,2022秋田県職公務	
GS学科	高等学校教諭一種免許状（英語）			1		
	中学校教諭一種免許状（英語）	2	3			

資格を用いた就職者の比率

学科名	資格名	2020年度	2021年度	2022年度		
子ども教育学科	保育士資格	保育園・保育所	62%	62%	54%	
		こども園				幼稚園教諭と同一人物をカウント
	幼稚園教諭一種免許状	幼稚園	40%	34%	51%	
		こども園				保育士資格と同一人物をカウント
小学校教諭一種免許状	67%	75%	50%			
心理福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格	38%	33%	67%		
	精神保健福祉士国家試験受験資格	33%	17%	57%		
	高等学校教諭一種免許状（公民）	0%	0%	33%		
	介護福祉士	100%	0%	100%	現在は取得不可	
健康栄養学科	栄養士	53%	40%	39%		
	管理栄養士国家試験受験資格	35%	39%	30%		
	栄養教諭一種免許状	0%	20%	0%		
GS学科	高等学校教諭一種免許状（英語）	0%	0%	17%		
	中学校教諭一種免許状（英語）	50%	43%	0%		

（八木田 僚）

次に、上記の資料から各学科について観察されることをまとめた。グローバル・スタディーズ学科は資格中心のカリキュラム構成となっていないため、別の資料を付してコメントを加えた。

[人間発達学科]

人間発達学科の幼児教育コースの学生は、「幼稚園教諭一種免許状」「保育士資格」を取得することができる。2020年度から2022年度における幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得率は、微減の傾向にあるが、いずれも85%以上の割合を維持している。4年間の教育課程の履修状況を考慮すると、取得率の変動は、実習活動の影響を受けていることが推測される。初等教育コースと幼児教育コースのコース分けが行われる2年次では、幼児教育コースの殆どの学生が幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方を希望するが、3年次の「保育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習」「保育実習Ⅱ」と4年次の「施設実習」の参加によって、保育という職業に対する自身の適性を見極めた結果、免許状や資格の取得を諦める学生が現れてくることが考えられる。

初等教育コースの学生は、「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」を取得することができる。2020年度から2022年度における小学校教諭一種免許状の取得率は100%を維持しており、幼稚園教諭一種免許状の取得率は、多少の変動があったが、75%以上の水準を維持している。免許状の取得状況から、小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状に対する初等教育コースの学生の高い価値づけと、学生の高い学修効果を確認することができる。

〈資格を用いた就職者〉の状況について

2020年度から2022年度までの期間で、「保育士資格」を用いて、「保育園・保育所、認定こども園」に就職した学生の割合は、62%・62%・54%となっており、半数以上の学生が保育士資格を就職活動に生かしていることが確認される。また、今回のデータで示されていないが、保育園・保育所と認定こども園の他に、保育士資格を活用して、「児童養護施設」「障害児・者福祉施設」に就職した学生も一定数いたため、学生のキャリア形成における保育士資格の価値と効果が確認される。「幼稚園教諭一種免許状」を用いて「幼稚園、認定こども園」に就職した学生の割合は、それぞれ40%・34%・51%であるが、増加傾向にある認定こども園への就職においては、保育士資格と幼稚園教諭免許状の併有が有利に働くため、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の相乗効果も期待される。

また、初等教育コースでは、小学校教諭一種免許状を用いて就職した学生の割合は、67%・75%・50%となっており、半数以上の学生が小学校教諭免許状を就職活動に生かしていることが確認される。この割合の背景には、学校教育現場の現状や課題が注目されるようになり、教職が敬遠される社会状況の影響が考えられるが、教師不足や学校における働き方改革の動向を総合的に考慮すれば、学生のキャリア設計における小学校教諭一種免許状の潜在的価値も期待される。 (呂光暁)

心理福祉学科について

[心理福祉学科]

(1) はじめに

今回は、主に社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格、高等学校教諭一種免許状（公民）の4つの資格について報告する。

具体的な報告内容として、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格の資格、介護福祉士国家試験受験資格の3資格については「国家試験合格者数および合格率」、「資格を用いた就職者」、高等学校教諭一種免許状（公民）については「取得者数」、「資格を用いた就職者」に関する内容とした。

なお、本報告は、4つの資格の「国家試験合格者数および合格率」や「資格を用いた就職者」などの数字が多くないことを前提にまとめた内容であることをご理解頂きたい。

(2) 3 資格について

1) 国家試験合格者数および合格率について（新卒者の場合）

社会福祉士国家試験の受験者と合格者は、2020年度は受験者8人中3名、2021年度は受験者9人中3名、2022年度は受験者6人中4名が合格であった。合格率をみると、2020年度は37.5%、2021年度は33.3%であった。2022年度は66.7%であり、前年度（2021年度）と比較すると約2倍近く合格率が上がっていた。

精神保健福祉士国家試験の受験者と合格者は、2020年度は受験者3名中2名が合格、2021年度は受験者6名中4名で合格、2022年度は7名中5名が合格であった。合格率をみると、2020年度と2021年度はともに66.7%であり、2023年度は71.4%であった。3年間の合格率をみると約70%前後となっていた。

介護福祉士国家試験の受験者と合格者は、2020年度は受験者1名中1名が合格、2021年度は受験者4名中4名で合格、2022年度は1名中1名が合格であった。合格率は、2020年度から2022年度の3年間100%であった。

2) 資格を用いた就職者について

社会福祉士の場合、資格を用いた就職者数は、2020年度は国家試験受験者8名のうち3名、2021年度は9名のうち3名、2022年度6名のうち4名であった。

精神保健福祉士の場合、資格を用いた就職者数は、2020年度は国家試験受験者3名のうち1名、2021年度は6名のうち1名、2022年度7名のうち4名であった。

介護福祉士の場合、資格を用いた就職者数は、2020年度は国家試験受験者1名のうち1名、2021年度は4名のうち0名、2022年度1名のうち1名であった。

(3) 高等学校教諭一種免許状（公民）について

1) 取得者数について

高等学校教諭一種免許状（公民）の取得者数は、2020年度と2021年度は0名、2022年度は1名であった。

2) 資格を用いた就職者について

資格を用いた就職者数は、2020年度と2021年度は0名、2022年度は1名であった。2022年度の場合ではあるが、資格の取得者1名が資格を用いて就職していた。

(4) おわりに

社会福祉士国家試験受験資格と精神保健福祉士受験資格の2資格については、毎年、資格を用いて就職している学生がいるという状況である。資格を用いて就職しているかどうかを確認するためには、継続して国家試験受験資格取得者数や資格を用いた就職者数を把握していく必要があると思われる。高等学校教諭一種免許状（公民）については、2022年度のみの数字であったため、今後も取得者数などを確認していく必要があると考える。 (三浦和夫)

[健康栄養学科]

健康栄養学科は管理栄養士養成施設として全員が管理栄養士国家資格を目指すという特殊性があるため、今回は分析を行っていない。ただ、資料2-2より管理栄養士の養成施設であるにもかかわらず、管理栄養士よりも栄養士としての就職の方が多いたことが分かる。

[グローバル・スタディーズ学科]

資料1の国家資格を除くとGS学生が希望するのは学内資格や協会資格であって多様である。学科では年度初めのガイダンスで学生に学科提出用の仮時間割を作成させ、その時に希望する資格を書かせている。コロナ禍にあって途中学生の希望調査ができなかった年度があるため欠けた年度がある。

[資料3]

GS学科 資格希望調査（年度初めに仮時間割を学科研に提出）

2023年度 1年生 31名

(1人平均1.16個の資格を希望)

英語教職	5	16%
社会教職	0	0%
児童英語教員	5	16%
上級ビジネス実務士	10	32%
上級情報処理士	1	3%
情報処理士	3	10%
日本語教員	6	19%
旅行業務取扱管理者	4	13%
社会教育士	1	3%

2023年度 2年生 45名

(1人平均2.5個の資格を希望)

英語教職	9	20%
社会教職	1	2%
児童英語教員	18	40%
上級ビジネス実務士	17	38%
上級情報処理士	16	36%
情報処理士	12	27%
日本語教員	20	44%
旅行業務取扱管理者	14	31%
社会教育士	2	4%

2022年度 1年生 46名

(1人平均2.9個の資格を希望)

英語教職	12	26%
社会教職	0	0%
児童英語教員	15	33%
上級ビジネス実務士	21	46%
上級情報処理士	16	35%
情報処理士	10	22%
日本語教員	20	43%
旅行業務取扱管理者	17	37%
社会教育士	1	2%

2022年度 2年生 56名

(1人平均1.17個の資格を希望)

英語教職	5	9%
社会教職	0	0%
児童英語教員	6	11%
上級ビジネス実務士	11	20%
上級情報処理士	12	21%
情報処理士	6	11%
日本語教員	14	25%
旅行業務取扱管理者	8	14%
社会教育士	3	5%

2019年度 1年生 66名

(1人平均2.5個の資格を希望)

英語教職	6	9%
社会教職	4	6%
児童英語教員	21	32%
上級ビジネス実務士	17	26%
上級情報処理士	22	33%
情報処理士	15	23%
日本語教員	40	61%
旅行業務取扱管理者	22	33%
社会教育士	4	3%

通算のデータ

1年生希望資格の平均` (2.19)

英語教職		17%
社会教職		2%
児童英語教員		27%
上級ビジネス実務士		35%
上級情報処理士		24%
情報処理士		18%
日本語教員		41%
旅行業務取扱管理者		28%
社会教育士		3%

希望順 1年

①日本語教員	41%
②上級ビジネス	35%
③旅行業務	28%
④児童英語	27%
⑤上級情報	24%

2019年度 2年生 75名

(1人平均2.68個の資格を希望)

英語教職	14	19%
社会教職	0	0%
児童英語教員	17	23%
上級ビジネス実務士	34	45%
上級情報処理士	23	31%
情報処理士	22	29%
日本語教員	33	44%
旅行業務取扱管理者	36	48%
社会教育士	3	4%

2年生希望資格の平均` (2.12)

英語教職		16%
社会教職		1%
児童英語教員		25%
上級ビジネス実務士		34%
上級情報処理士		29%
情報処理士		22%
日本語教員		38%
旅行業務取扱管理者		31%
社会教育士		4%

希望順 2年

①日本語教員	38%
②上級ビジネス	34%
③旅行業務	31%
④上級情報	29%
⑤児童英語	25%

GS学科の傾向として、学生1人当たり平均二つの資格を希望している。卒業時まで実際に取得した資格の数もこれと大きく変わらない。加えて、なんらかの語学検定を受けている学生も相当数い

る。学生が希望する資格については日本語教員が最も多く、上級ビジネス史と旅行業務、児童英語と上級情報がそれに続く。旅行業務、児童英語、上級情報の数はあまり差がない。

現在、日本語教員の国家資格化が行なわれていて国家試験の導入も含めてハードルがかなり高くなる。学生の希望がそれに伴ってどのように変わるかについては注視しなければならない。これまでのような高い数値ではなくなるかもしれないが、それでも安定的に需要が見込まれる。（矢口洋生）

【新入生アンケート】

「2023年度新入生アンケート結果」からの考察

本報告は、2023年度新入生アンケートに基づき、アンケート結果から今後の入試広報戦略を考える上で新入生確保に資する情報に注目することである。本アンケートの回答数および回収率は167名中113名（67.7%）であった。

なお、本アンケートに対する考察は詳細な統計的データ分析によるものではなく、報告者の主観に依るところが大きいことに注意されたい。

【問1 あなたの所属学科を選択してください。】

本アンケートに対する学科別の回答数および回収率を以下に示す。子ども教育学科（27/36名：75.0%）、心理福祉学科（42/44名：95.4%）、健康栄養学科（31/55名：56.4%）、GS学科（13/32名：40.6%）。

全体的に健康栄養学科とGS学科の回答率が低く、新入生ガイダンスなどの機会を利用して、回答率を高めていく必要がある。新入生は入学直後ということもありアンケート等への協力を得やすい環境にあると考えられ、また、本学の入口（入学）から出口（卒業・就職）までの一連の流れを踏まえたIRを進めていくためには、回収率の上昇は重要であろう。

【問2 あなたが入学した入学選抜区分を選択してください。】

入学選抜区分による入学者の割合は以下の通りである。

総合型選抜（21.2%）、学校推薦型選抜（61.9%）、一般選抜（12.4%）、大学入学共通テスト利用選抜（4.4%）、社会人選抜（0.0%）。

一番割合が高いのが学校推薦型選抜であり、文科省（2023）の「令和4年度大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究」によると、私立大学の入学選抜区分のうち31.5%が学校推薦型選抜であることから、本学の学校推薦型選抜入学者の割合はかなり高水準であると考えられる。また、総合型選抜においても、私立大学全体のデータでは19.7%であるのに対して、本学は21.2%と比較的高い水準である。一方で、一般選抜の割合は私立大学全体で48.8%であるのに対し、本学では12.4%と一般選抜による入学者の割合が非常に低い。このことから、後述する問5の「本学の志望順位」で第1希望が83.2%と高いことを踏まえると、それが全国の私立大学と比較しても学校推薦型選抜、総合型選抜による入学者が多い理由と考えられる。

【問3 あなたの出身地をご記入ください。※選択肢にない回答は「その他」の件をご入力ください。】

入学者の出身地として最も多かったのが「仙台市以外の宮城県内」で32.7%、次いで「仙台市内」の29.2%と、宮城県全体では61.9%となった。宮城県以外では岩手県（9.7%）、秋田県（7.1%）が比較的

多かった。一方で、隣県の山形県や福島県の入学者は比較的少なかった。福島県においては、東京へのアクセス（時間）がそれほど悪くないため東京への進学者が多い可能性もある。各県の高校訪問の際には、地元以外でどの都道府県への進学が多いのかなど情報収集する必要がある。

【問4 いつ頃、本学の受験を意識しましたか。※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

最も割合が高いのは「高3夏」30.1%、次いで「高3春」23.0%、「高2」19.5%となっている。「高3夏」(30.1%)、「高3秋」(8.8%)、「高3冬」(8.8%)と高3夏以降の比較的遅い時期に本学を意識する割合は全体の47.7%となっている。高3夏、高3秋は三者面談の時期と合致するため、三者面談によって本格的な志望校が決定されると考えられる。戦略としては、進路指導の先生に本学の魅力を十分にアピールすることと、オープンキャンパス等で早い段階、時期に本学を意識してもらえるような取り組みが必要と考える。

【問5 本学の志望順位は、次のうちどれですか。】

第1志望(83.2%)、第2志望(10.6%)、第3志望(5.3%)と続いている。本学では学校推薦型選抜、総合型選抜での入学者が83.1%であることから、その割合と対応していると考えられる。

【問6 あなたが本学を志望校に決めたとき、参考にした情報源を選択してください。(複数回答可) ※選択肢にない回答は「その他」にご協力ください。】

「オープンキャンパス」(69.0%)、「大学パンフレット」(58.4%)、「大学ホームページ」(37.2%)、「高校の先生」(25.7%)、「進路相談会・高校相談会」(23.0%)、と続いている。オープンキャンパスが志望校を決めるうえで最も大きな影響があることが分かった。ただし、オープンキャンパス以外の情報源で本学に興味を持ち、その結果としてオープンキャンパスに参加して志望を明確にしたのか、オープンキャンパスに参加してみて本学に興味を持つことで情報収集をしたのかという因果性までは検討できない。いずれにしても、オープンキャンパスが入学者数に与える影響は大きいと考えられ、より多くの高校生にオープンキャンパスに参加してもらうことによって入学者数の増加が見込めると考える。

また、高校の先生が情報源となっている割合も比較的高いことから、高校訪問や高校教員対象説明会の重要性が浮き彫りになった。高校教員に本学の魅力を十分に理解してもらうための方策を考えることが重要であろう。

【問7 本学のオープンキャンパスには何回参加しましたか。】

「1回」(27.4%)と「2回」(27.4%)が同率で最も多く、それに次いで「4回」(21.2%)、「3回」(22.1%)であった。この結果から、リピーターも相当数いることが分かる。そのためにも、時期に応じてオープンキャンパスのテーマやコンセプトを明確にし、何度来ても楽しめる、学べるオープンキャンパスになるように戦略を練る必要がある。

【問8 本学を含めてオープンキャンパスは、何校に参加しましたか。】

本学のみオープンキャンパスに参加している学生が最も多い(37.2%)ものの、「2校」(23.0%)、「3校」(22.1%)の割合も一定程度高いことから、本学はある程度の競争力(魅力)を持っているといえる。これまでのオープンキャンパス時のアンケート結果にもある通り、実際に参加した高校生からの評価は決して低くないことを考慮すれば、上述した通りオープンキャンパスにどれだけ高校生を呼び込めるのかは重要なファクターとなるだろう。

【問9-1 志望校を決める際に新型コロナウイルス感染拡大の影響はありましたか。】

コロナの影響がある（「とても影響があった」(4.3%)と「やや影響があった」(14.2%)を合わせた回答）と回答した割合は18.5%で、コロナの影響がない（「あまり影響がなかった」(38.1%)、「全く影響がなかった」(31.0%)）と回答した割合は68.1%であり、全体としては新型コロナウイルス感染拡大が志望校を決める上での理由とはなっていないことが示された。ただし、2023年度入学生はある程度新型コロナウイルス感染拡大への世間の認識が緩和されてきた時期であり、今後もその傾向は継続されるであろう。

【問9-2 問9-1で選んだ理由をご入力ください。】

同上。

【問10 受験を決定する際、本学について不足していた情報はどれですか（複数回答可）※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

比較的割合が高いものとして、「授業内容」(40.7%)、大学の周辺環境(28.3%)、「教員の研究内容」(28.3%)が挙げられていた。授業内容は、大学案内パンフレットや大学HPでは科目名や少数の授業は掲載されているが、もう少し詳細な授業内容を紹介したり、模擬授業よりもより本格的な授業を体験できる機会を設けるなど、工夫が必要であろう。また、入学後に一人暮らしをする遠方の学生にとっては、周辺環境が安心・安全・便利に生活できる環境かは非常に大きな要素であると考えられる。例えば、オープンキャンパス時に周辺MAPなどを配布したり、HP上でも同様の情報を提示することも視野に入れるべきであろう。教員の研究内容は、現在大学HP上で各教員の研究室紹介という形で掲載するようになったため、それを継続していく必要がある。

【問11 本学の他にどこを受験しましたか（複数回答可）※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

「宮城学院女子大学」(9.7%)が最も多く、それ以外では東北学院大学(6.2%)、尚絅学院大学(4.4%)と続いていたが、基本的には本学と同様の学科構成の大学であることが伺える。その意味では、本学と今回挙げられた大学との明確な差異を強調する必要があるだろう。また、本学の入学者の多くが総合型選抜、学校推薦型選抜であることを考えると、本質問項目があまり効果的であるとは言えない。むしろ、オープンキャンパス時に本質問項目を入れたうえで検討することが重要であろう。

【問12 本学への入学を誰に相談しましたか（複数回答可）※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

入学に際して最も相談している相手として「親・家族・親戚と相談して決めた」(85.0%)が最も多く、次いで「高校の先生と相談して決めた」(67.3%)であった。当然ながら親の影響は大きく、高校生本人に魅力的な大学であることをアピールすることは当然であるが、本学に入学することによってどのような将来が見えるのかを積極的にアピールする必要がある。本学の理念も重要ではあるが、「具体的」にどのような結果（資格の合格率、就職先）が得られるのかをアピールする必要があるだろう。また、先述した通り、高校の先生の影響もかなり大きいことが分かる。

【問13 あなたが本学に入学した理由を選択してください（複数回答可）※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

「少人数で主体的に学べる」(61.9%)、「専門的な資格・免許」(60.2%)、「学問分野に興味がある」

(51.3%)などが特に多く選択されていた。少人数教育は本学の特徴としては中心的なもので、オープンキャンパス時のアンケートでも教員と学生の距離の近さ、アットホームな雰囲気が評価されていた。この点については、中・大規模の大学の雰囲気や教育方法に魅力を感じる学生もいるため、学生本人の性質にも大きく左右されると考えられる。その意味では、ある程度の棲み分けができる可能性がある。ただし、近隣大学でも少人数教育を推している大学は複数あることから、少人数教育に加えて特徴的な教育をアピールしていく必要があるだろう。また、専門的な資格・免許が取れることや学問分野に興味があるとの回答は、他の大学でもそれほど大きく変わらないと考えられるので、今後はより魅力的で特徴のあるカリキュラムを作ることも視野に入れる必要があるだろう。

また本学の売りである「カトリック大学であること」(4.4%)は本学に入学した理由としては大きなものではないことが分かる。もちろん本学は東北唯一の4年制カトリック大学としての誇りを持つことは必要であるが、この点を強く押し出すことは現状ではあまり効果的ではないと思われる。

【問14 本学にどのようなイメージを持っていますか(複数回答可) ※選択肢にない回答は「その他」にご入力ください。】

「資格が取得できる」(71.7%)が圧倒的に多く選択されていた。この資格が国家資格を指しているのか、国家資格だけでなく任用資格や認定資格などの資格も含めて示しているのかについては検証が必要である。この点は、良い面で考えれば「資格に強い大学」としてのイメージとも言えるが、逆に言えば資格取得を考えていない高校生にとっては、このイメージが入学への障壁となり得るかも知れない。中・大規模の大学では資格取得を希望していない学生に対しても幅広い選択肢が用意されている。しかし、本学では途中からの進路変更の場合とはもかくとして、最初から資格取得を考えていない学生にどのようなサポートができるのかについても検討する必要があるだろう。

参考資料

文部科学省(2023). 大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究 調査報告書

https://www.mext.go.jp/content/20230417-mxt_daigakuc01-000028258_1.pdf (2024年2月26日)

(結城 裕也)